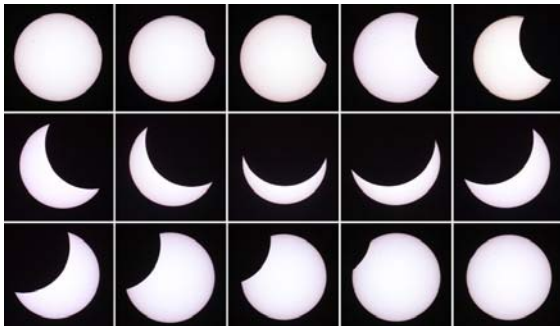


ストレス・テスト合格、そして 満ち潮引き潮

—続々・2015年3月20日の部分日食
バイエルンの太陽光発電—

3月20日、ミュンヘンは、快晴。予測どおり、午前10時少し前から、部分日食開始。ノルウェーのベルゲン、シュピツベルゲン (Bergen, Spitzbergen) からの皆既日食の中継をインターネットで見ながら、減光フィルターをかざして、幸い筆者の住まいからも十分に11時45分までの約2時間、部分日食を見ることが出来た。70%近くが、月におおわれる10時45分ぐらいから、温暖な快晴の午前中にもかかわらず、明るさが減少、かなり寒い体感温度となり、外に出ていた観測者は、皆あわててラフにきていたコートのファスナーやボタンを閉じていた。



公式は発表された南ドイツフライブルグ (Freiburg) で観測された2015年3月20日の部分日食。左上の写真から開始され、ミュンヘンからもほぼ同様のプロセスをみる事ができた。



ノルウェーからの皆既日食の公式リリース。

さて、注目されていたエネルギー供給への影響は、幸い Blackout には陥らず、宇宙からのストレス・テストに合格。関係者たちは、胸をなでおろしている。ドイツは、エネルギー政策上、二酸化炭素及び風塵排出で問題視されている褐炭の火力発電の存在意義が議論されている中、今回は、かなりこの発電源の発電量を高め、一時的太陽光発電のドロップを埋め合わせる助っ人として役に立っている。今後も褐炭火力発電を存在させるべきという意見と、低炭素化にかかる費用が、非常に高くつくので、やはり終息するべきとの論争に、再度、火がついている。



日食が観測されている間、真剣な面持ちで待機するエネルギー供給中枢の関係者たちと、無事、ストレス・テスト合格後通常オペレーションにもどった中枢センター

さて、日食から1日たった、フランスの大西洋画岸、ノルマンディー、ブルターニュ (Normandie, Bretagne) では、宇宙の現象から



起きる高潮現象が起きた。今回の日食の際の月の位置が、地球に非常に近く、また、月よりは影響は少ないとはいえ、太陽からの影響が重なり、満ち潮引き潮の差が通常より大きい14mを観測。

Mont-Saint-Michel は、すっぽり海にかこまれ、潮干狩りを

して、貝を集めるのが好きなフランス人たちは、満ち潮引き潮の合間を縫って貝をあつめたり、波しぶきを浴び、天体現象の第2部を体験。

ただし、20日には、今回の日食を Spitzberge で観測中の一人が、北極熊に襲われ、負傷したり、21日は、潮干狩り中の1名が、高波にのまれ、おぼれてる。

複雑なエネルギー問題で試行錯誤中の昨今、壮大な宇宙の現象にふれる時、自然への畏敬の念を抱かずにはいられない。

次回のこのような高波現象は、2033年の3月3日と2051年の3月と予測されている。

Setsuko Schwarzer 22.03.2015

(参考資料)

BR ZDF ARD all News
Handelsblatt 20.03.2015



高波と、それを体験する Saint-Malo の観光客 21.03.2015



いつもより深くすっぽりと海にかこまれた Mont-Saint-Michel と海岸で潮干狩りにくりだす人々 21.03.2015